



# 遊びにおいて！うちの集落へ

## 七山村の十坊山ファンクラブ活動

尾崎 正利

(よかネットNO.57 2002.5)

- 3 農業振興

この半年、月に1～2度、佐賀県七山村に足を運んでいる。正確には七山村というよりも同村内の大白木集落に行っている。昨年からの集落が行っている交流活動事業「十坊山ファンクラブ」に参加させていただいているためだ。

交流活動は平成10年にスタートした村の単独事業「活力あるむらづくり事業」による活動の延長で生まれた。この事業では村内の16集落が、地域の資源発掘、区民の憩いの場づくり、地区内の清掃方針の検討会議、ゴミ収集所づくり、伝統芸能復活など、それぞれの事情に即した計画が作られている（村内の各集落で順々に取り組まれており、平成14年度まで事業子定）。

大白木集落では、平成10年度に同事業で「大白木地域夢プラン」を集落で作成したのち、プランに沿って水仙栽培やミヤマクワガタの森、消防教室、ゴミステーションの設置などを進めてきている。いずれも集落のみんなで力（材料・労働・時間・資金）を持ち寄って一つずつ作ってきたものだ。その中に「都市との交流事業」というのがあり、平成12年度から「十坊山ファンクラブ」として発足した。ちなみに十坊山とは、集落の背後にある標高535mの山のことで、ここの頂上からは美しい唐津湾が一望できる。

芋掘りから山登り、水仙まつり、イノシシの会など  
地元密着テーマが目白押し

私はこれまで、自然薯掘（昨年11月）、地日本酒研修会（今年2月）、水仙まつり（今年3月）と参加したが、年間スケジュールが決まっています、大体1～2ヶ月に1回の頻度で何か催しが行われる。こういうスケジュールで既に過去約2年間は実施してきている。農繁期の時期などは大変だと思うが、できるだけ一年を通じて地元の集落と自然を楽しんでもらおうという気分が良く出ていると思う。

会員は大体10家族、20名弱くらい。福岡都市圏

から7割だが、中には福岡県南部の大川市や佐賀県の有明海近くにお住まいの方もいる。このくらいの規模だと、地元の方にとって顔と名前が覚えられる。不特定多数ではなく、特定の人に何度も来ていただき、双方が馴染んでいくという感じで、じわじわと交流を拡げている。

催しがあるときは、日曜日の朝10時に大白木公民館に集まる。参加費は内容によって異なるが、一家族で概ね2～3千円といったところ。この大白木公民館の建物は、交流活動の拠点となっており、ある時は十坊山ファンクラブの集まりが2階であって、集落の高齢者の集まりごとが1階で行われていたりする。

大きな台所やかまどがあるため、1階で集まりがある時には、集落の婦人たちが材料を持ち寄って何か煮炊きをしていることが多く、その料理の一部（白和えや煮しめ、猪汁、つけものなど）が時々差し入れとして2階に送って来たりするが、それがとても美味しい。こうした不定期な楽しみに出くわすことも、この会の魅力だと思う。

地元の人が無理なく、楽しめるように

このファンクラブの事務局は鬼木和俊さん。村役場に勤めるかたわら「大白木活力ある村づくり

### 平成14年度スケジュール

- 4月上旬 十坊山登山および山菜狩り
- 5月上旬 たけのご堀交流会
- 6月上旬 ほたる鑑賞会
- 7月上旬 浮岳登山  
\* 浮岳は筑紫富士といわれる山
- 8月上旬 柏原湿原サギ草見学
- 9月上旬 新米を食する会および彼岸花鑑賞会
- 10月上旬 村の産業祭り参加ツアー及びみかん狩り
- 11月上旬 やまいも堀り及び焼き芋
- 11月下旬 つがにご飯を味わう会
- 12月上旬 ミニ門松作り及び焼き芋
- 1月1日 初日の出を見る会
- 3月下旬 水仙祭り



農作業からの帰りにイノシシの会に集まった白木のみなさん



白和え、煮しめ、だぶ(野菜を切って炊き合わせたもの)などの差し入れ

推進委員会」(中村孝光会長)を中心に、村外からの来訪者と集落のみななどのパイプ役を務めている。

「地元の集落のみなができることをやろう」「地元の人と一緒に楽しめるような交流をやろう」「準備にくたびれる程の過大なもてなしは双方の心の負担になる」といつも言っており、催しがあるときには参加者に申し込みを出してもらうようにしている。

毎回、封筒に祈りたんだ案内文が入れられて送られてくるが、事務所でそれを見て文面を読んでもみると、なぜかほんわかした気分で、微笑ましい気持ちになる。ここではそのいくつかを紹介してみたい。

- ・ 柚子の収穫が大変で困っています。無料開放しますので、うちの山のは勝手に採って行って下さい。なお無料では心苦しいという方は「大白木公民館」のポストにお好きな代金を入れておいて下さい(平成13年度12月の案内)。
- ・ のんびりしたい方は「大白木公民館」を無料で開放しますので自然散策にでも来て下さい。区民の人が通りますので「十坊山の会員です」と

声をかけて交流を深めて下さい(平成14年度4月の案内)。

- ・ たぶんのんびりと田植えの準備をしていると思います。手伝い(邪魔)をされたい方は連絡下さい。一日百姓気分で土遊びをしましょう。弁当持参です(平成14年度4月の案内)。
- ・ 大白木の新米で「つがにご飯」を参加者で作りたいと考えています。私はいつも食べています。たいへん贅沢しています(平成14年度年間行事の紹介)。

自然とともにある、のんびりしたこの集落の雰囲気や伝わるような案内には、いつも心惹かれてしまう。

集落が儲けているものは憎報

こうした事務的な活動経費は集落みんなの負担ということになっており、平成14年度は一軒あたり6千円ずつ、合計39軒で23.4万円を集めて「大白木夢プラン」の見直し計画を作成するという。

こうしたファンクラブ活動の地元に対する効果として、鬼木さんの話では、都会の人が日頃(大白木の人が)見慣れた風景や自燃、野の草花などに関心を抱くのを見て、どんなことを求められているのか考えるきっかけになる、しかも、それに対して参加費を払ってやって来る人がいることをみて、自分たちの集落の資源もいいものだと思うようになった、お年寄りの知恵や技術など、経験を積んだ人が大事にされるようになって、世代間の会話が増えた、失敗しても満足だという体験メニューがとても人気で、今後は子供達の教育にも生かせると感じるようになった、などがあげられる。つまり、集落が一番儲けているものは、そうした諸々の情報である。

また、経済的な面からみても、モチトウキビの会員、米づくりの会員、みかんやキウイの販売も行われており、定例的な会合以外の場で個人的に注文する会員の方もいるようだ。

「水仙祭り」はイノシシ丸焼きを囲んで総勢70数名の大宴会

さる3月24日には「水仙祭り」が開催された。参加者は以前から増やしてきた水仙の花畑の除草作業などを手伝って、その後はイノシシ丸焼きの宴会になった。この日の宴会は集落の皆さんとの交流ということで、老若男女問わず人が集まって総勢70数名にもなった。

私は当事務所の女性2人を連れて行ったが、これまでファンクラブでもお会いしたことがなかった集落の現役お年寄りグループ（男性6人、女性5人）のテーブルに入れてもらった。座ると若い女性2人が一緒というのが皆さんことのほか嬉しいようで、焼けたイノシシの肉や野菜の煮つけ、お酒をどんどんすすめられた。話によると、農作業を終えて、道具を小脇にかかえて帰り途に立ち寄った人も多く、ちょうどお腹が減っていたからといって、皆さんお年寄りとは思えないほど元気な食べっぷりだった。「これからもずっと遊びにおいでね」と何人ものお年寄りに誘われた。やっぱり今回も来て良かったと思った。